

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年度より、基本計画に基づき、「まちの資源を活かした、誰もが主役となれるまち 公園都市（パークタウン）周南」を中心市街地におけるまちづくりの理念に掲げ、「賑わい」と“楽しさ”のあるまちづくり」及び“利便性”と“快適さ”のあるまちづくり」の基本方針のもと、基本計画に掲げる各事業を推進している。

令和3年度は、再開発事業において、既存建物の解体、駅前棟の建築工事も進み、まちの変貌を遂げつつある。再開発事業に併せて、周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるため、中心市街地活性化協議会に設置したゾーニング&マグネット部会において検討された、商店街に魅力的な店舗や必要な機能の配置に関する取組みを行った。

その一つとして、中心市街地へ出店を希望する者への支援を行うテナントミックス推進事業では、審査会が商店街に不足していると判断した業種（重点出店業種）への補助額を、最高100万円から最高200万円に増額した。これにより、意欲のある出店者に対し、来街者にとって魅力ある店舗の出店を促している。

また、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント事業の中止や縮小、オンライン化が進む中、徳山あちこちマルシェについては、感染対策を徹底して、新型コロナウイルス流行前と概ね同規模で開催することができ、商店街を含む中心市街地全体が賑わいを見せた。また、当マルシェを参考に新しく主催を希望する団体も生まれ、まちづくりのプレーヤー増加による賑わいの拡大が期待される。

中心市街地活性化協議会では、駅周辺の賑わいを商店街等中心市街地全体に波及させるため、徳山駅前賑わい交流施設の指定管理者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）や、まちづくり会社、徳山商工会議所、JR西日本、市をはじめとする関係機関・企業やイベント実施団体等で「街と駅との連携会議」を月に2回のペースで開催しており、イベント等の中心市街地に関する情報共有や検討を行っている。令和3年度は、情報提供に留まらず、まちの課題である「集客力の低下」について、ワークショップなどを通して参加者全員で考え、対策を提案する機会を設けることで会議の在り方を進展させた。

再開発事業については、令和4年夏頃には駅前棟の供用が開始され、令和5年冬には、施設全体が開業する予定である。引き続き、駅周辺の賑わいを中心市街地全体に波及させていくために官民連携して中心市街地活性化を進めていく。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

**(1) 居住人口**

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	8,866	8,773	8,693			
人口増減数	-	△93	△80			
自然増減数	-	-	-			
社会増減数	-	-	-			
転入者数	-	-	-			

**(2) 地価**

		令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
住宅地	児玉町3丁目	74,600	76,100	77,600			
商業地	御幸通2丁目15番	131,000	131,000	132,000			
	桜馬場通1丁目13番外	77,600	77,600	78,000			
	平和通1丁目19番	112,000	111,000	110,000			
	本町1丁目20番	72,200	72,200	72,400			
	柳町13番2外	51,100	51,100	51,200			

**2. 令和3年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

中心市街地活性化協議会では、協議会内に設置したタウンマネジメント会議を中心に、行政と民間が中心市街地の情報や課題を共有・連携しながら計画事業の推進に取り組んできた。

令和3年度は、ゾーニング&マグネット会議において、銀座一番街の構想の実現に向けた、女性を中心としたワークショップ等を開催し、開放的で明るい空間イメージや、そこに集う人々に提供するサービスの方向性を共有することで、中心市街地活性化の機運が高まった。

令和4年度からは、新町、銀座一番街の老朽化したアーケードの撤去や、歩行者利便増進道路制度の導入が進み、再開発事業の進捗とともに、中心市街地が生まれ変わる様子をより一層感じとれるようになる。

基本計画に掲げた事業は、新型コロナウイルスの影響により、一時休館や規模の縮小を余儀なくされたことなどから基準値に達しなかったものもあるが、概ね順調に進捗していると評価している。今後も数値目標の達成に向けて、さらに行政と民間が一体となって推進していく必要があり、協議会としても尽力したいと考えている。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
みんなが行きたくなる、魅力あるモノ・コトがあふれるまち	物販・サービス業等新規出店数(件)	62 (H26～H30)	83 (R2～R6)	27 (R2～R3)	B	①	①
	中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)	936,940 (H30)	1,115,150 (R6)	589,539 (R3)	C	①	①
みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち	平日歩行者等通行量(人/日)	32,937 (H30)	38,660 (R6)	28,084 (R3)	C	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

### 2. 目標達成見通しの理由

「物販・サービス業等新規出店数(件)」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、出店に対する機運が低下しやすい状況の中、基準値62件(1年あたり12.4件)に対し、令和3年度は14件の出店があり、前年の数値及び基準値を超えることができた。再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、今後、更に出店の動きが活発になると考える。

「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時休館を余儀なくされたことなどから、基準値を下回る結果となった。一方で新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったことや、近場の観光需用の向上、イベントが徐々に再開されたことなどから、徳山動物園の来園者数、文化会館の来館者数、宿泊者数については前年度から回復している。

令和4年度以降も引き続き、文化・観光施設との連携を強化し、中心市街地の回遊性向上、各施設の来館者数等の増加を見込み、目標値の達成を目指す。

「平日歩行者等通行量(人/日)」についても、新型コロナウイルス感染症の影響や、みなみ銀座商店街のアーケード撤去作業による通行止め等により、基準値32,937人に対し、28,084人と減少した。令和5年度の完了を目指す再開発事業に向けて、再開発施設だけでなく、その周辺への回遊性の向上にもつながるよう、商店街に魅力的な店舗や必要な機能の配置の検討を行っていく。

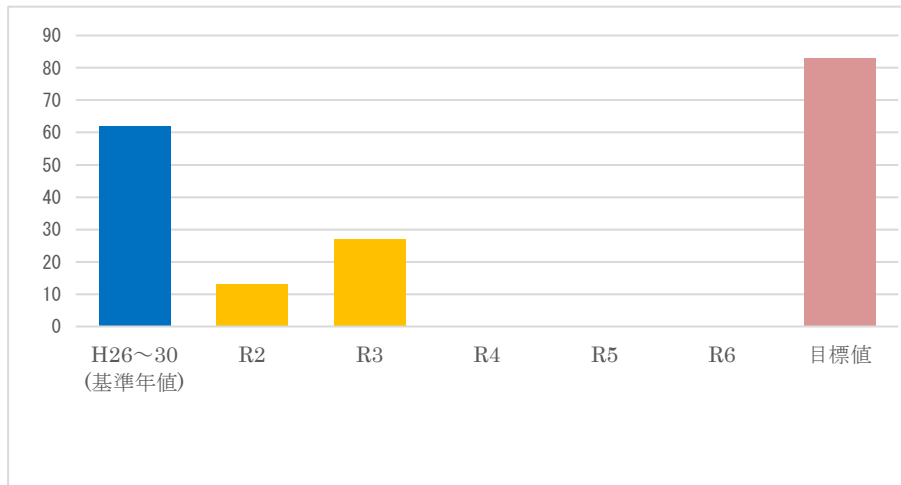
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

基準値は下回っているが、その要因として新型コロナウイルスの影響が大きいことと、令和5年に完了する再開発事業による居住人口、中心市街地への来街者数の増加が見込めることから、前回のフォローアップからの見通しは変更しない。

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「物販・サービス業等新規出店数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 81～P. 84 参照

#### ●調査結果と分析



年	(件)
H26~ H30 (基準年値)	62
R2	13
R3	27
R4	
R5	
R6	83 (目標値)

※調査方法： 毎年行っている中心市街地の商店街等の実態調査（営業店舗数、空き店舗数、業種業態割合等）をもとに調査を行う。

※調査月： 毎年10月～12月頃

※調査主体： 市

※調査対象： 中心商店街等

#### 〈分析内容〉

新規出店14件のうち、6件は、徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に伴う移転による出店となる。また、テナントミックス推進事業による補助を行った新規出店2件は、再開発事業の動きを見越した出店であり、既に、再開発事業による周辺商店街への好影響が起きていると考える。

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新	事業目標値10件

値及び進捗状況	令和5年度完了予定。 令和3年度は、地区内の解体工事が進捗し、駅前棟（オフィス等）と住宅棟（マンション等）の建設工事に着手した。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山あちこちマルシェ（徳山あちこちマルシェ実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	徳山駅南北自由通路から商店街一帯を会場とした回遊性のあるマルシェイベントの実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件（②+③） 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント事業がオンラインまたは規模を縮小して開催される中、徳山あちこちマルシェについては、コロナ前と概ね同じ規模で2回開催（10月16日参加者5000人、12月18日参加者8000人）した。うち、1回は賑わい交流施設指定管理者が自主事業として実施する周南蚤の市とのコラボレーションとして開催した。 イベント実施主体や国、県が定めたコロナ対策ガイドラインに沿って、安心安全なマルシェ開催に努める。
事業の今後について	今後も継続して実施することにより、中心市街地内の店舗の魅力の再発見や中心市街地への出店のきっかけとなるよう努めていく。

③. つながる「場面」づくり ～SLS(Super Local Site)～（徳山あちこちマルシェ実行委員会、徳山商工会議所、ナシブドウグミ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	統一的なマルシェの空間をつくるための、出店用のセットを作成・貸出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件（②+③） 徳山あちこちマルシェをはじめとする各種イベントにて、出店用セットを貸し出すことにより、同じデザインの店舗が並び、統一された空間のプロデュースを行うことができ、イベントの価値の向上が図られた。

事業の今後について	SNS での発信等により、認知度の向上を図る。
-----------	-------------------------

④. テナントミックス推進事業（徳山商工会議所、株式会社まちあい徳山、周南市）

事業実施期間	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街において新規出店する民間事業者に対して、店舗改装費、広報宣伝費を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 3 年度は、3 件の採択（うち物販・サービス業 2 件）を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、出店に対する機運が低下しやすい状況の中、再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、出店に関する相談も定期的にある状況である。また、特例措置として、重点出店業種に対しては補助限度額を最高 100 万円から最高 200 万円に増額した。
事業の今後について	まちなか出店サポートセンター等と連携して事業の周知を図り、商店街への魅力的な店舗や必要な機能の誘導に繋げる。

⑤. 閉店・物件活用相談サポート事業（株式会社まちあい徳山、周南市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	商店の閉店や、閉店後の物件の活用に関する相談を受ける窓口の設置
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 5 件 株式会社まちあい徳山が、閉店に関する相談を受け、サポートした結果、令和 2 年度には、個人店舗 1 件を株式会社に譲渡する事業承継を行うことができた。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、店舗の有効活用や新陳代謝を進めていく。

⑥. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>令和3年度は、令和2年度のゾーニング&amp;マグネット会議での検討結果に基づき、テナントミックス推進事業での特例措置として、重点出店業種に対する補助限度額を最高100万円から最高200万円とすることとした。</p> <p>令和3年度に重点出店業種に該当する申請はなかったが、物販・サービス業等の新規出店数は増加しており、今後も制度の周知や新規出店希望者の支援を続けていく。</p> <p>また、再開発施設の周辺の商店街のひとつである一番街の再整備構想として、構想実現のための体制作りや再開発前に実施可能な事業について検討した。実現には至らなかったが、今後の方向性を共有できたことにより、周辺商店街とのより一層の連携強化が見込まれる。</p>
事業の今後について	令和4年度以降も、テナントミックス推進事業等による新規出店希望者の支援により、重点出店業種の増加を目指す。

⑦. 空き店舗見学ツアー事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	空き店舗への新規出店を促すために、空き店舗見学ツアーを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値3件</p> <p>令和3年度は2回（10月14日参加者2人、11月15日参加者3人）実施。参加者の中から、ツアーで紹介した箇所とは別店舗ではあるが、テナントミックス推進事業と絡めて開業準備を進めている事例がある。</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見つつ、継続して開催し、新規事業者の呼び込みを目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

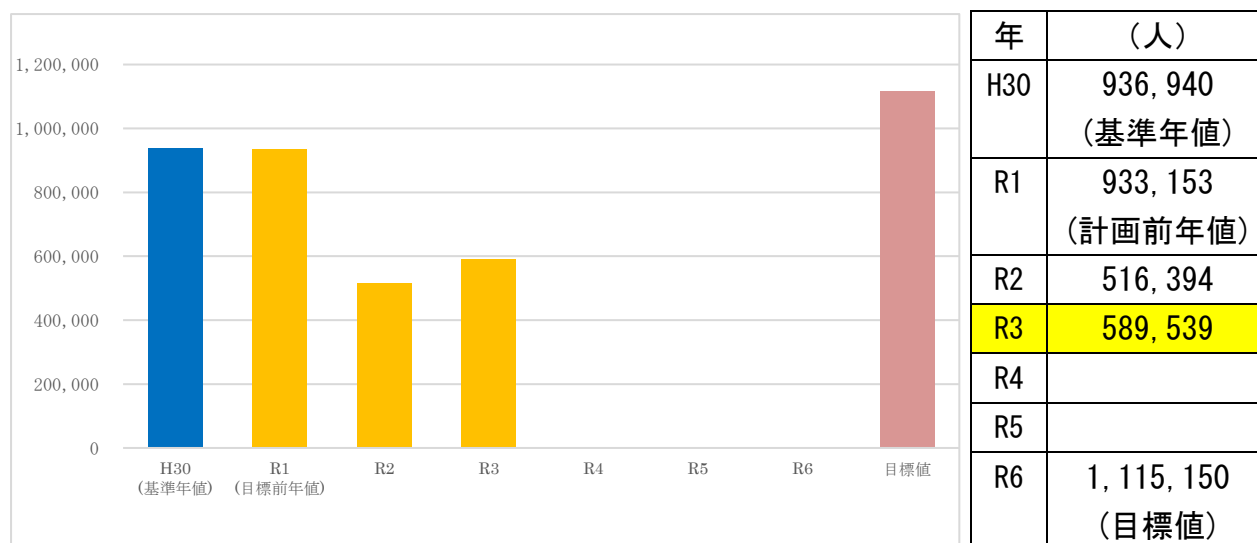
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、基準値62件（1年あたり12.4件）に対し、14件の出店があり、前年の数値と基準値を上回っている。

令和5年度完了予定の再開発事業を見越した出店の動きも出てきており、更に動きが活発になると考える。

今後も、テナントミックス推進事業等による出店者の掘り起こしを進め、また、重点出店業種の周知を図るなど、官民連携して計画を推進し、出店数の増加に努めていく。

**(2)「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数」** ※目標設定の考え方認定基本  
 計画 P. 85～P. 88 参照

●調査結果と分析



※調査方法：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

各施設が公表している年間入館者数（4月～翌年3月）を調査

【宿泊者数】

毎年行っている観光動態調査にて、中心市街地エリア内の年間（1月～12月）観光宿泊者数を調査

※調査月：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

各年4月～3月

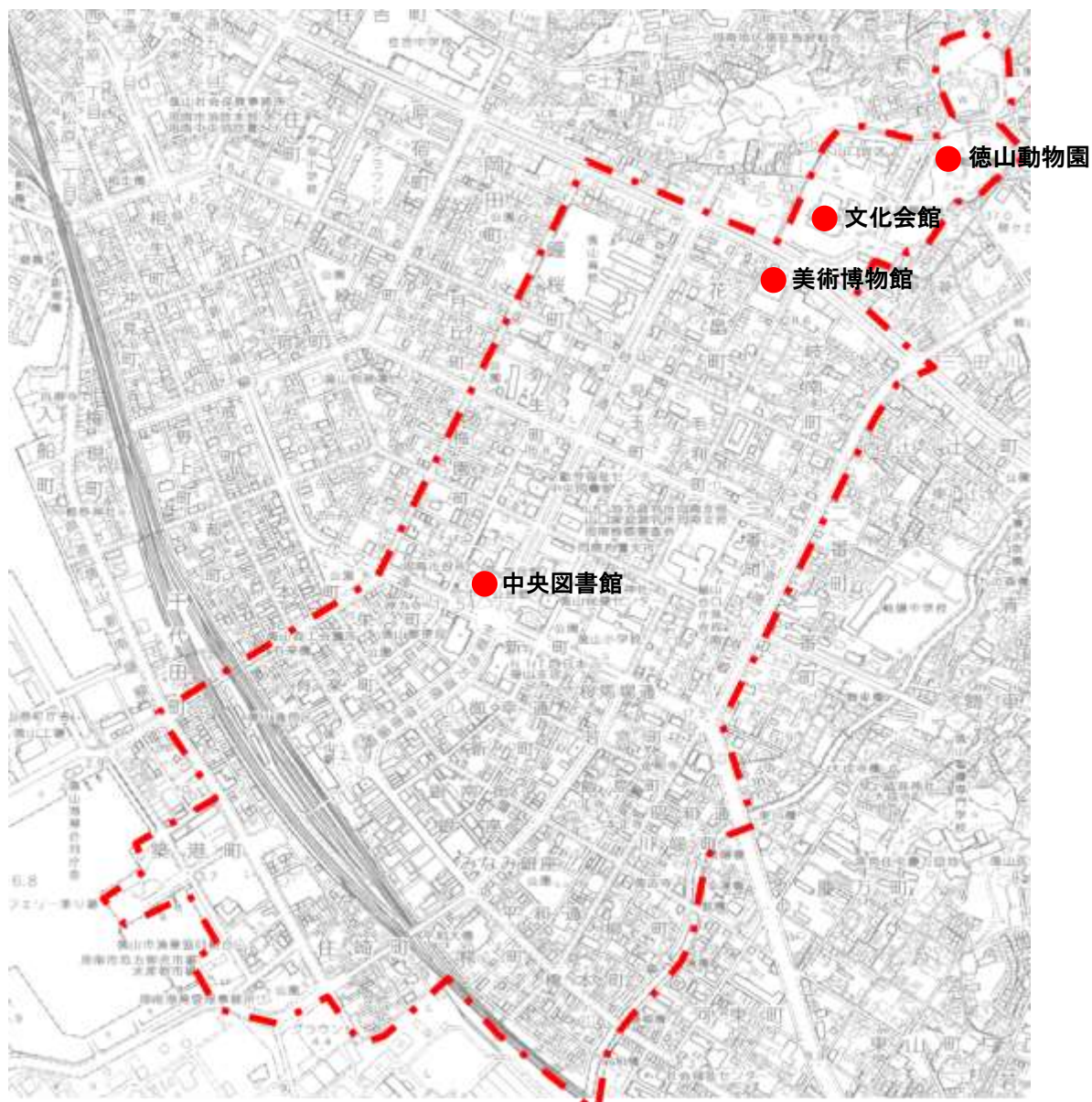
【宿泊者数】

各年1月～12月

※調査主体：市



※調査対象：動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館、中心市街地エリア内宿泊施設



	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
徳山動物園	268,607	195,757	208,499			
文化会館	266,557	56,923	112,900			
美術博物館	108,653	27,189	24,987			
中央図書館	119,348	102,727	95,509			
宿泊者	169,988	133,798	147,644			
合計	933,153	516,394	589,539			

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時休館を余儀なくされたことなどから、基準値を下回る結果となった。一方で、近場での観光需用の向上や、イベントが徐々に再開されたことなどから、徳山動物園の来園者数、文化会館の来館者数、宿泊者数について

は前年度から回復している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値25,550人 令和5年度完了予定。 令和3年度は、地区内の解体工事が進捗し、駅前棟（オフィス等）と住宅棟（マンション等）の建設工事に着手した。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていく。

②. 徳山動物園リニューアル事業（アジアの熱帯雨林ゾーン）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【実施中】
事業概要	徳山動物園内に、アジアの熱帯雨林ゾーンを設け、スリランカゾウやマレーグマ、熱帯雨林の鳥類等の動物を観覧できるゾーンを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業）【国土交通省】（平成27年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値34,562人 令和2年度にマレーグマ舎及び爬虫類舎の整備が完了したほか、令和3年度は、ゾウ飼育場（ゾウ舎は平成31年度に完了）、ヤマアラシ飼育場、コツメカワウソ飼育場及び園路・植栽等の周辺整備が完了した。
事業の今後について	令和5年度から令和6年度にかけて、極東アジアから北極圏の自然ゾーンの整備を進めていく。

③. 児玉源太郎メモリアル事業

事業実施期間	令和4年度【未】
事業概要	中央図書館にて、児玉源太郎の功績の紹介や、児玉源太郎にまつわる品々を展示するコーナーを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	事業目標値7,688人

値及び進捗状況	令和4年度に常設の展示コーナーを設置予定。
事業の今後について	令和4年度に常設の展示コーナーを設置予定。

●目標達成の見通し及び今後の対策

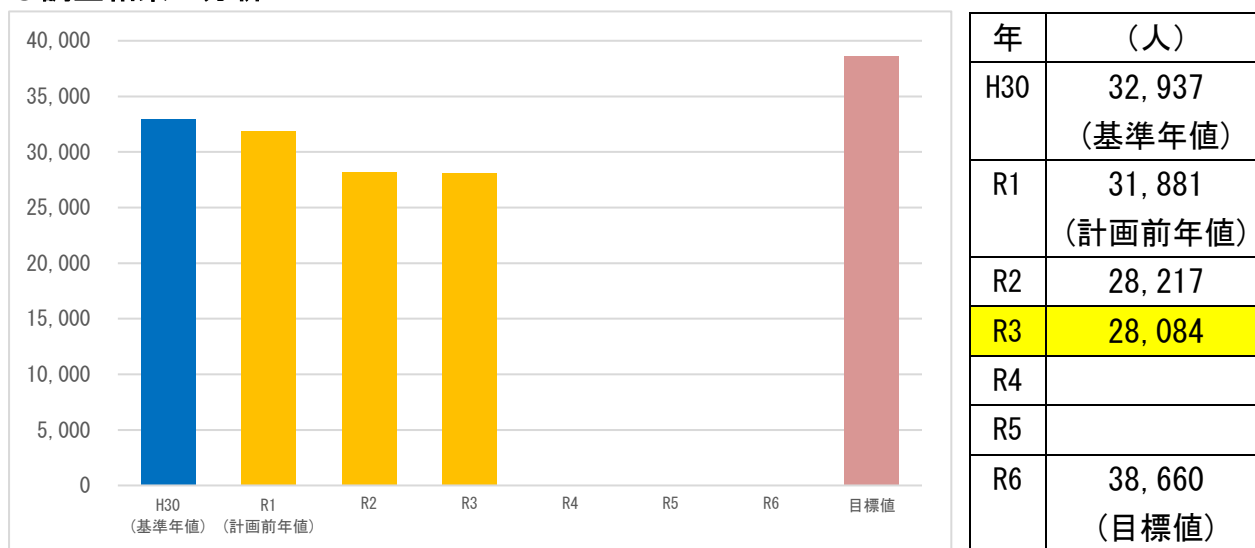
新型コロナウイルス感染症の影響により、一時休館を余儀なくされたため、基準値には達していないが、近場での観光需要が向上していることや、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったことなどから、令和4年度以降も中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数の回復が見込まれる。

令和3年度は、動物園から中心市街地内への回遊性向上のためのクイズラリーイベント等、文化・観光施設との連携を行ったことなどから、前年度と比べて来園者数の増加に繋がった。

令和4年度も、新型コロナウイルスの感染状況を注視する必要があるが、引き続き各施設で連携して回遊性を高め、目標数値の達成を目指す。

(3)「平日歩行者等通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 89～P. 94 参照

●調査結果と分析



※調査方法： 平日1日間の午前10時～午後7時までの通行量を測定（悪天候の場合等には予備日にて実施）

※調査月： 各年10月～12月

※調査主体： 市

※調査対象： 中心市街地エリア内計 15カ所における自転車及び歩行者の通行量



(単位：人)

	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
A 広島銀行前	1,922	1,675	1,418			
B vec 前 (旧フタバフルーツパー ラー前)	4,098	3,866	4,039			
C どさん子徳山駅前店前 (旧藤本 たばこ店前)	2,929	2,663	3,138			
D 有吉有文堂印房前	1,142	1,089	890			
E 石田屋ビル前 (新町)	1,064	961	805			
F ダイヤビル前	1,462	1,216	1,054			
G エムラ前	1,753	1,778	1,384			
H 河村玉煎堂前	727	735	618			
I セブネス銀座南	2,330	1,931	2,342			
J セブネス銀座東	1,161	1,109	921			
K みずほ銀行・大和証券前	4,974	4,314	4,878			
L 伊藤ビル前東	1,353	1,156	1,092			
M 沖ビル前	1,166	1,084	900			
N グランドール徳山前 (岐山通)	1,474	1,699	1,544			
O 南北自由通路 (南側)	4,326	2,941	3,061			

合計	31,881	28,217	28,084			
----	--------	--------	--------	--	--	--

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、前年と比べて歩行者等通行量が減少した地点が殆どではあるが、大幅に減少した地点は少ない。

通行量が増加した「地点 B vec 前（旧フタバフルーツパーラー前）」については、令和3年9月、賑わい交流施設内に新たに開業した飲食施設「vegetable eat culture (vec)」の影響も推察される。また、「地点 C どさん子徳山駅前店前（旧藤本たばこ店前）」「地点 I セブネス銀座南」 「地点 K みずほ銀行・大和証券前」については、再開発事業に伴うみなみ銀座商店街西側の通行止めや、仮設駐輪場の移転による影響が大きく、新型コロナウイルスの流行前と概ね同等の計測値となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和4年度【実施中】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値5,426人/日 令和5年度完了予定。 令和3年度は、地区内の解体工事が進捗し、駅前棟（オフィス等）と住宅棟（マンション等）の建設工事に着手した。
事業の今後について	令和5年度完了に向けて整備を進めていくほか、再開発事業完了に先立ち、再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山駅南口広場整備事業（周南市）

事業実施期間	平成22年度～令和2年度【済】
事業概要	徳山駅南口駅前広場において、交通ターミナルの機能を向上させる整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業【国土交通省】（令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値221人/日 令和3年3月完了。
事業の今後について	南側の玄関口が整備されたことによって、街と港との連続性による回遊性の向上が見込まれるほか、周辺の都市開発が進むことが期待される。

③. 徳山駅前北口広場活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年度に完成の徳山駅前北口駅前広場について、イベント等に活用しやすくするために、利用の際のルール整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	JR及び警察等と複数回協議を重ね、「周南市徳山駅前広場等条例」を制定した。令和4年度の施行に向けて、引き続き駅前広場や施設の適正な管理を進め、使用許可の手続きの簡素化等、イベントを行いやすい環境の整備を目指す。
事業の今後について	令和4年度は、「周南市徳山駅前広場等条例」の円滑な施行に向けて規則を定め、施設利用者向けのガイドライン等の作成に努める。

④. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度は、テナントミックス推進事業の特例措置として、重点出店業種に対し、補助限度額を最高100万円から最高200万円とすることとした。 また、令和3年度は、ゾーニング&マグネット会議において、銀座一番街の再整備構想の実現に向けた、女性を中心としたワークショップ等を開催し、開放的で明るい空間イメージや、そこに集う人々に提供するサービスの方向性を共有した。これにより、構想実現のための体制作りや再開発前に実施可能な事業について検討を進めた。
事業の今後について	一番街の再整備構想については、実現には至らなかったが、今後のイメージを共有することで中心市街地活性化の機運を高めた。

⑤. シビックプラットホーム活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	市役所のシビックプラットホームを、市民の活動の場とし

	て活用する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 60人/日 当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和2年度の1,699人から令和3年度は1,544人と減少しているが、マルシェイベントであるしゅうなんシビックマルシェが、昨年度の1回から回数を増やして3回（4月4日、6月21日、10月4日）実施された。 また、令和3年度からフリーWi-Fiを導入し、Web会議や講演会等で活用されている。
事業の今後について	令和4年度以降も会議室としてだけでなく、イベントでの使用許可を継続することで、賑わいの創出に繋げていく。

⑥. 商店街で育む子どもの可能性を伸ばす場作り事業（株式会社コミクリ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	まちづくり会社や商店街と連携し、小学生の放課後や長期休暇などに、就業体験やIT学習のできる場を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 13人/日 当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和2年度の1,156人から令和3年度は1,092人となった。 令和3年度は、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、商い体験は実施せず、オンラインでのITツールを活用した多様な学び体験とした。
事業の今後について	令和4年度については、地元団体との連携を検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和3年度は前年度の実績を下回る結果となったが、計画に掲げた事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能であると考えます。

今後は、令和5年度の完了を目指す再開発事業に向けて、再開発による施設だけでなく、その周辺への回遊性の向上にもつながるよう、商店街に不足している業種等の出店支援を続け、魅力的な商店街の創出を図っていく。

また、徳山駅前賑わい交流施設から生まれた賑わいを中心市街地全体へ波及させるために、指定管理者（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）と、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、徳山商工会議所、JR西日本、市をはじめとする関係機関・企業や既存のイベント実施団体等による「街と駅との連携会議」を開催し、イベント等の協働実施や、情報共有等を行っている。令和3年度は、情報提供に留まらず、まちの課題

である「集客力の低下」について、ワークショップなどを通して参加者全員で考え、対策を提案する機会を設けることで会議の在り方を進展させた。今後も、新たなイベント等を行うまちづくりのプレイヤーの発掘・支援を行いながら、官民が連携してまちづくりを進めていく。